

# 合同会社 5W1H 「フレームワーク質問力®」研修

合同会社5W1Hでは、「質問力＝真実・解決策・新たな可能性を探求する能力；経験から学ぶ能力；状況に対応しつつ学習する能力」であると考えています。

「フレームワーク質問力®」研修では、「相手の『フレーム』（価値判断基準；モノの見方；解釈の切り口；暗黙の前提条件など）と自分のフレームのズレを調整しつつ、真実あるいは解決策を探求する能力」の獲得に向けて、数多くの演習と詳細な振り返りを通して、実践的に学んでいきます。

## ● 受講によって期待できる効果

- 対話の相手と建設的関係を築けるようになる。主体的に考える人財を育てるのに役立つ。
- 自分の言動・態度が、他者にどのような影響を及ぼすのかわかるようになる。
- 質問の持つ作用・効果を理解して、話を組み立てたり、影響力を発揮したりするようになる。
- 自分(たち)とは異なる意見に出会って、保身的な態度・言動を取るのではなく、異なる意見の背景にある、相手の視点・立場・目的・意図などを探求するようになる。
- 他者からのフィードバックやコメントを、積極的に受け入れるようになる。

## 【受講前後の違い(イメージ)】

**受講前：**状況が困難になればなるほど、詰問・尋問のように相手を責める一方的な情報収集を激しく行うことで、その場に対処する。相手との関係性や、場の雰囲気が悪くなることもある。従来のやり方や、上司の見解などに質問することがないため、従来の延長線上にない解の登場は期待できない。

**受講後：**コミュニケーションの目的に適った質問を選んで組み立て、自分(たち)が取り組むべき課題について改めて深く理解し、物事をこれまでとは異なる側面から考えることを通して、関係者が無意識に受け入れている制限を明らかにしたり、対話を通して多角的な物の見方をしたりするようになる。従来の延長線上にない解についても探求するようになり、目的達成・問題解決・意思決定・新しい手法の学習などを効果的に行えるようになる。

## ● 「フレームワーク質問力」の特徴：経験や勘に頼る「質問力」との違い

経験や勘に頼る「質問力」	合同会社5W1Hの「フレームワーク質問力」
話し手・聴き手の置かれた状況・関心の的・個性・気持ちなどを考慮せず、特定の場面で推奨される「決まった会話パターン」(質問のフレーズ)を記憶することが主流で、ひたすら場数を踏むことを勧める、講義型(レクチャー型)研修。	話の内容が流動的に変わったりすることがあることを理解した上で、話の構造を意識しながら聴くこと、相手のモノの見方を意識した質問フレーズの選び方・組み立て方の指針などについて段階を踏んで学び、対人演習と詳細な振り返りを繰り返す、参加型(ワークショップ型)研修。
記憶したフレーズを機械的に繰り返し、相手に「わざとらしい／ぎこちない」といった印象を与える質問者を生み出す。 やみくもに質問力の実践経験を積んでも、「変なクセを身につけてしまって気づかない」「何がどういった理由でまずいかわからず、どう直せばいいのか手掛かりがない」という状況に陥りがち。	自分のコミュニケーションを振り返る際のガイドラインとして、「質問力を発揮する上で大切なこと」「ヒトの認知のメカニズム」などといった原理原則について学んでいるので、日常生活におけるコミュニケーションを、経験学習の機会として効果的に活用していくことができる。さまざまな「体験」を、学習対象として「経験」に落とし込み、積み上げていく際の基礎となる体系がある。